KAGAMI GLASS WORKS
#12/12
2020.12

各務ガラス工房　各務ひとみ　〒360-0031　埼玉県熊谷市末広 2-7　TEL&FAX　048-522-6192　info@kagami-glass.com

美術館案内 Go To ミュージアム + 建築探検

谷村美術館 ― 村野藤吾

この御時世、GoTo GoTo と浮かれてはいられませんので、せめて紙上での美術館めぐり、それもあまり混雑しない美術館をチョイスしました。しかも建物の設計はいずれ劣らぬ大看板ばかり、レジェント中のレジェントです。

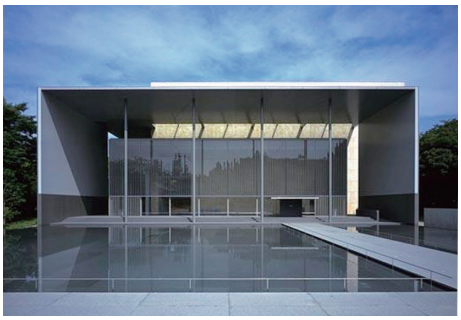
糸魚川市にある谷村美術館は、彫刻家澤田政廣氏の作品だけを展示する美術館。建物の設計は村野藤吾氏。93 歳で亡くなる 1 年前の 1983 年の竣工。建物が出来上がったとき「もう思い残すことはない」と言ったとか。

その外観はといえば、畑の中に突如モコっと現れたオドロオドロしい形状に、一瞬ひるみましたね。内部は、洞窟のように暗いのかと思いきや、天井が高く真っ白で、窓は見えないのに採光が工夫され、まるで天然の光背のように神々しい。迷宮のようだけれど導線はしっかりしている。考え尽くされた贅沢なる異空間。中身と入れ物の関係が不即不離であることにあらためて感動しました。

山口蓬春記念館 ― 吉田五十八

日本画家山口蓬春の葉山の自邸をその死後、美術館として公開（1991 年）。設計は数寄屋建築を独自に近代化させた吉田五十八氏の 60 歳の時の仕事（竣工 1954 年）。

江戸っ子でお金持ち、長唄は玄人裸足の気鋭の建築家となれば、もうモテる要素しかありません。画室は、和風なのに窓が大きく開放的、天井まで届く障子、シンプルな直線の構造。余計な物が一切ないギリギリまで考え抜かれた、なんともモダンなものでした。ここならいい仕事ができそう。



法隆寺宝物館 ― 谷口吉生

東博の法隆寺宝物館は 1999 年の竣工。設計は谷口吉生氏、当時 62 歳。美術史家の新見隆は、「軽やかで透過的な美しさと荘厳な緊張感が見事に合体。モダンと古代との希有な邂逅」と語っていますが、まさにほれぼれする完璧なディテールです。

しかし、ここのすごさは、デザインだけでなく、「永久保存」と「公開展示」という二律背反の問題を解決したところで、収蔵庫をそのまま展示室にするという画期的な方法にあります。だから内部があんなに暗いんだ!?

松濤美術館 ― 白井晟一

渋谷区立松濤美術館の開館は 1981 年。時に設計者の白井晟一氏は 76 歳。なんという重厚な美術館なんでしょう。まるで西洋のシャトーのよう。外壁は紅味を帯びた韓国産の花崗岩、ブロンズ製のグリルと化粧垂木、銅板葺きの屋根。モダニズムなにするものぞといった佇まいです。なのに、堂々としていながら繊細！

そのかわり予算もふくらみ、結果的には区の標準単価の倍ぐらいの費用になったとか。それでも GO サインを出した渋谷区は立派だなあ！